

学位請求論文の内容の要旨

論文提出者氏名	感覚統合科学領域 眼科学教育研究分野 氏名 高橋 静
(論文題目) Profiles of Inflammatory Cytokines in the Vitreous Fluid from Patients with Rhegmatogenous Retinal Detachment and their Correlations with Clinical Features (裂孔原性網膜剥離硝子体中の炎症性サイトカインと臨床像との関連)	
(内容の要旨) 目的 裂孔原性網膜剥離 (RRD) において硝子体中の炎症性サイトカインのうち IL6, IL8, MCP1, MIP1 β および IP10 が黄斑円孔 (MH) に比べ有意に上昇していることすでに報告した (2015 日眼総会)。今回は、これらのサイトカインと術前の臨床像との関連性を検討し、サイトカイン上昇の影響因子を探ることを目的とした。 方法 RRD28 例 28 眼の硝子体を手術開始時に採取した。対照疾患として MH10 例 10 眼にて同様に硝子体を採取した。炎症性サイトカインは Multiplex Beads Array 法にて測定した。臨床像として剥離範囲、剥離期間、硝子体の変化、黄斑剥離を指標として、硝子体中 IL6, IL8, MCP1, MIP1 β および IP10 との間の単相関解析と重回帰分析を行い、関連性を解析した。 結果 単相関解析にて MIP1 β は剥離範囲と剥離期間の両者に有意に相関し ($r = 0.469$, $P = 0.014$; $r = 0.466$, $P = 0.014$)、IL8 は剥離範囲にのみ有意に相関した ($r = 0.431$, $P = 0.022$)。IL6, MCP1 および IP10 はどの臨床所見とも相関はみられなかった。重回帰分析にて MIP1 β は剥離範囲と剥離期間 ($P = 0.012$, 0.020) の両者に、IL8 は剥離範囲にのみ ($P = 0.030$) 有意な関連を示した。 結論 RRD 硝子体中に増加するサイトカインのうち、MIP1 β は剥離範囲と剥離期間の両者に相関し、IL8 は剥離範囲に相関して上昇する。IL6, MCP1 および IP10 ではこれらの臨床所見との関連性がみられなかった。RRD において炎症反応と術前臨床所見との関連性の一端が明らかになったとともに炎症性サイトカイン上昇には多様な反応様式があることが推察された。	